



総務省

資料1

地上デジタル放送のコピー制御方式等に関するユーザー調査結果について

目的

一般視聴者における放送コンテンツのコピー制御方式に関する利用や認知度の実態・動向等を把握し、今後の放送コンテンツにおける権利保護のあり方の検討に資する。

実施概要

- ✚ 調査手法 インターネット調査
- ✚ 調査期間 2012年2月～3月
- ✚ 調査対象 日本国内在住の男女個人※1

※1 調査会社モニター(AV機器(テレビまたはレコーダー)の所有者)より、人口構成比(性、年齢、エリア)に基づき選定。

回収サンプル数

- ① スクリーニング調査※2 : 20,595サンプル
- ② 本調査※3 : 3,169サンプル

※2 本調査の対象者を抽出するための事前調査。本調査対象者の条件である録画機器の所持状況等に加え、コピーワンス、ダビング10の認知度等の設問についても調査。

※3 ②のスクリーニング調査の結果により抽出された録画機器の所有者を対象として、テレビ番組の録画回数や録画する理由等の設問について調査。

アンケート調査における用語の定義

用語	意味
録画機器	地上デジタル放送チューナーが搭載された録画機器
コピー	ハードディスク(内蔵または外付けHDD)へ録画した番組を、記録メディアへダビングすること
記録メディア	着脱可能なDVDやBD(ブルーレイディスク)等のこと
ビデオ・オン・デマンド	インターネットを利用した映像視聴サービス

アンケート調査の構成と項目

スクリーニング調査 【日本国内在住の男女個人】 20, 595サンプル

設問A: 録画機器保有状況 他

- | | |
|--------------------------|----------------|
| (1)録画機器の保有状況 | (2)保有録画機器の購入時期 |
| (3)保有録画機器での地上デジタル放送の録画経験 | (5)コピー制御の必要性 |
| (4)コピーワンス、ダビング10の認知 | |

凡例:

【 】 設問対象者を特定している場合の条件

本調査 【A-(1)「録画機器を保有」かつA-(3)「録画経験有」】 3, 169サンプル

設問B: 視聴状況及び録画経験ほか

- (1)受信しているテレビ放送
- (2)有料チャンネルの契約状況
- (3)1日のテレビ視聴時間(平日、休日)
- (4)視聴するテレビ番組のジャンル
【B-(3)「全く見ない人」は除く】
- (5)録画機器の保有状況
- (6)記録メディアへの地上デジタル放送のコピー経験
- (7)保有録画機器の記録メディアへのコピー可否
【B-(6)「コピー経験無し」】
- (8)保有録画機器のダビング10対応状況
- (9)録画時にダビング10対応を意識した経験
- (10)画像安定装置の保有状況

設問C: 録画の詳細

- (1)録画しているテレビ放送
- (2)録画頻度
 - ①HDD
 - ②記録メディア【B-(6)「コピー経験有り」】
- (3)録画するテレビ番組のジャンル
 - ①HDD
 - ②記録メディア【B-(6)「コピー経験有り」】
- (4)録画目的
- (5)録画番組の記録メディアへのコピー枚数
 - ①最大【B-(6)「コピー経験有り」】
 - ②平均【B-(6)「コピー経験有り」かつC-(2)②「週に1本以上」】
- (6)録画番組を記録メディアへコピーする目的
【B-(5)「コピー経験有り」】
- (7)録画番組を記録メディアへコピーしない理由
【B-(6)「コピー経験無し」かつB-(7)「コピーできる」または「わからない」】

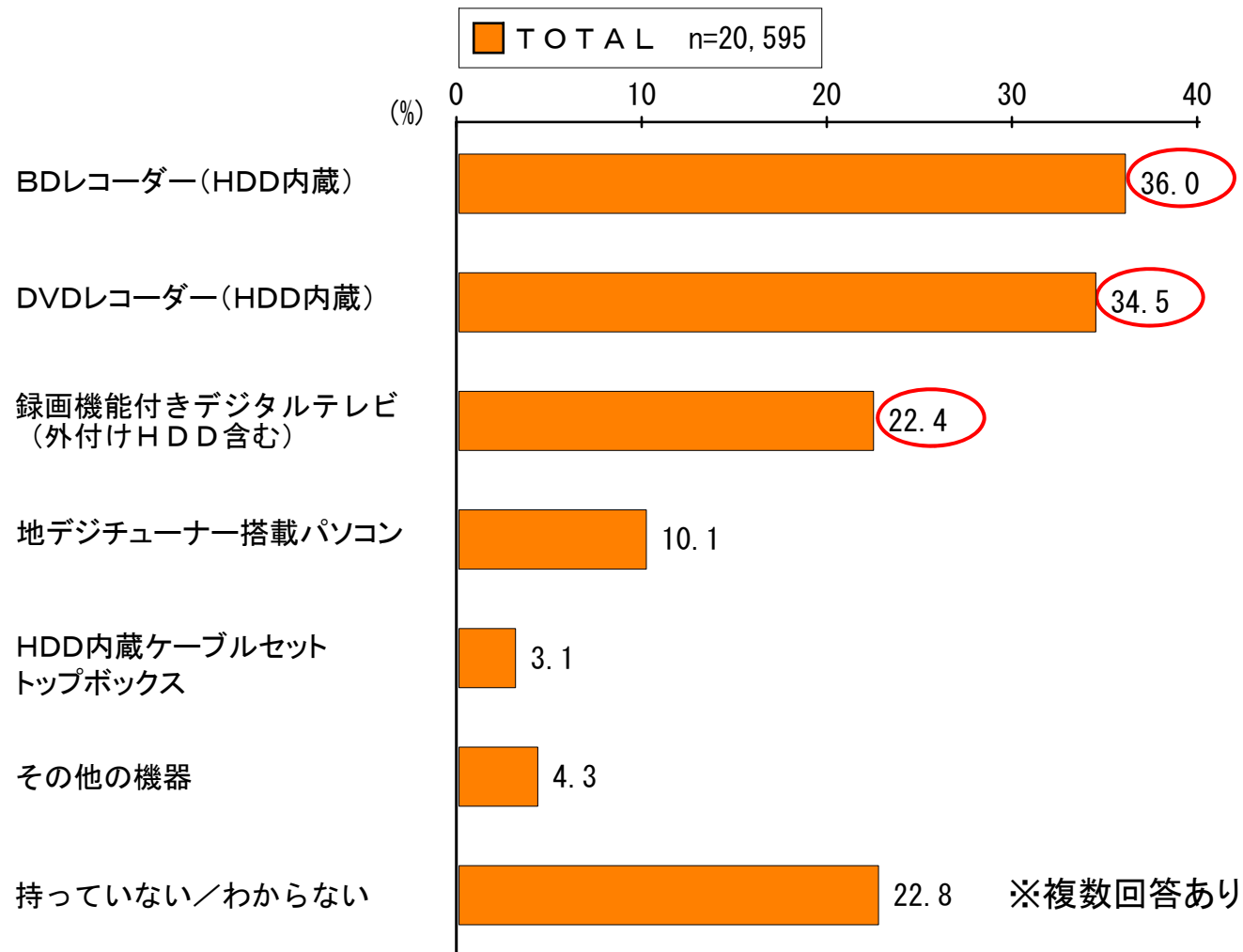
設問D: コピー制御ほか

- (1)ダビング10移行後の録画番組のコピー枚数の変化
【B-(8)「対応している」または「多分対応している」】
- (2)ダビング10移行による不便の解消状況
【D-(1)「2008年7月以前録画機器を持っていなかった」は除く】
- (3)地上デジタル放送におけるコピー制御の納得度
- (4)ダビング10見直しの必要性、見直しが必要な理由
- (6)テレビ番組が録画できなかった場合の対応
- (7)地上デジタル放送におけるスクランブルの認知度、納得度
- (8)B-CASカードによる不都合の状況
- (9)インターネットでの動画視聴時間

録画機器の保有状況と種類

※スクリーニング調査より

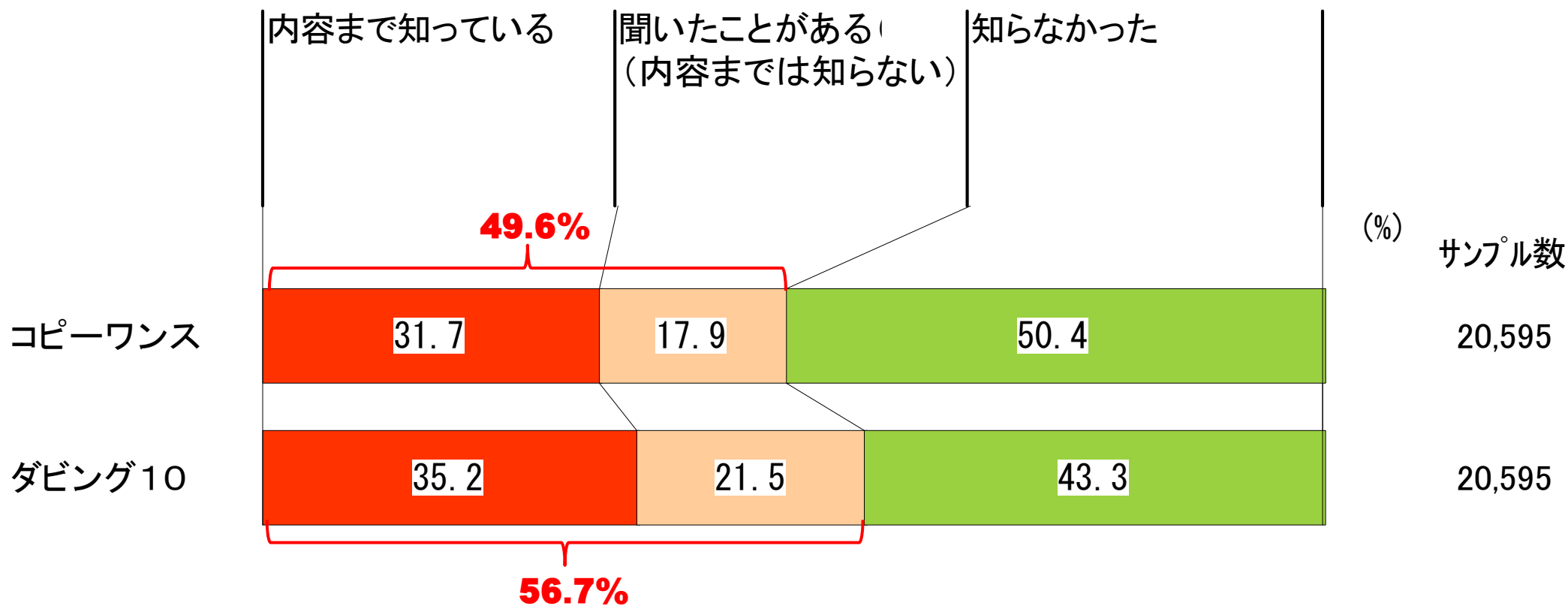
- 保有している録画機器の種類としては、BDレコーダーが36.0%と最も多く、次にDVDレコーダー、録画機能付テレビと続く。



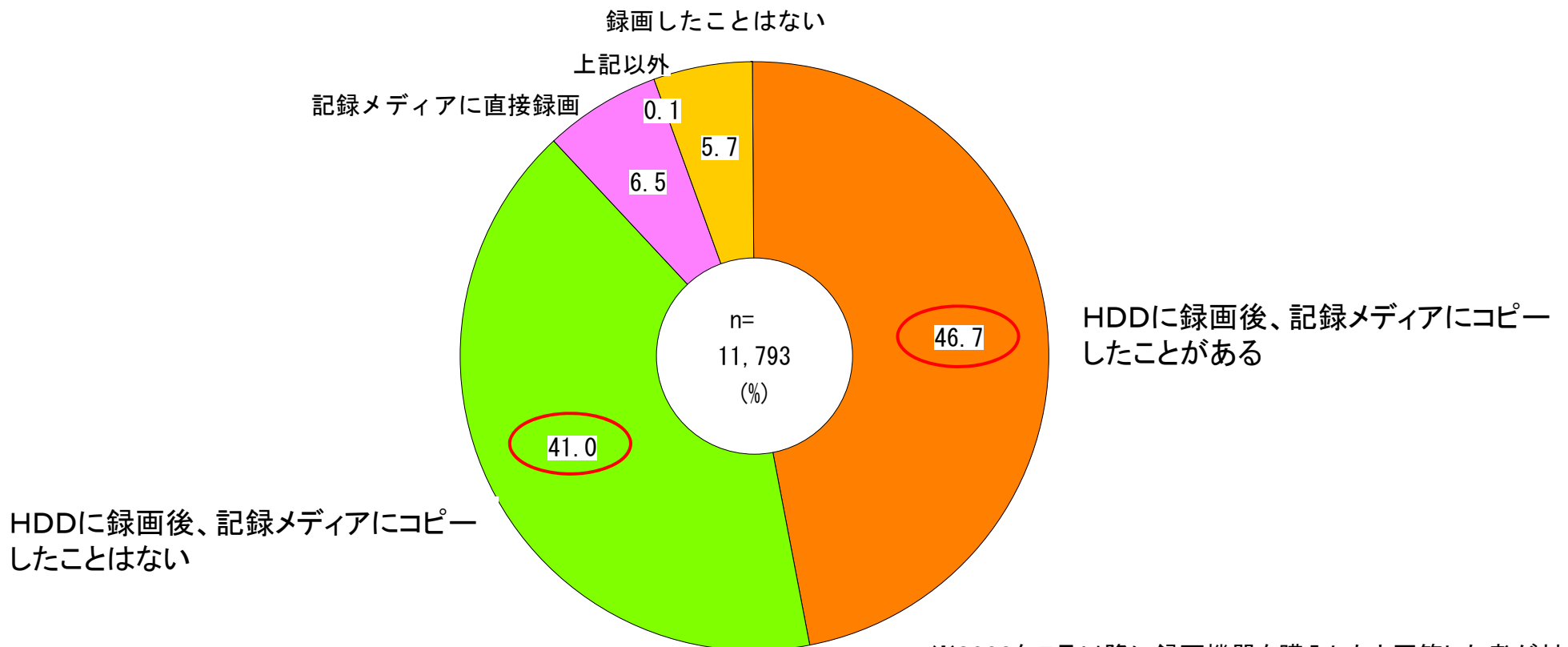
コピーワンス、ダビング10の認知度

※スクリーニング調査より

- ・ コピーワンスの認知度は49.6%、ダビング10の認知度は56.7%。



- ・ 自宅で主に利用している録画機器による地上デジタル放送の録画経験は、「HDDに録画後、記録メディアにコピーしたことがある」が46.7%、「HDDに録画後、記録メディアにコピーしたことはない」が41.0%であり、記録メディアへのコピー経験の有無はおおよそ半々。
- ・ また、「HDDへの録画」に着目すると、90%近くの人が行っており、「HDDへの録画」が大半を占めている。



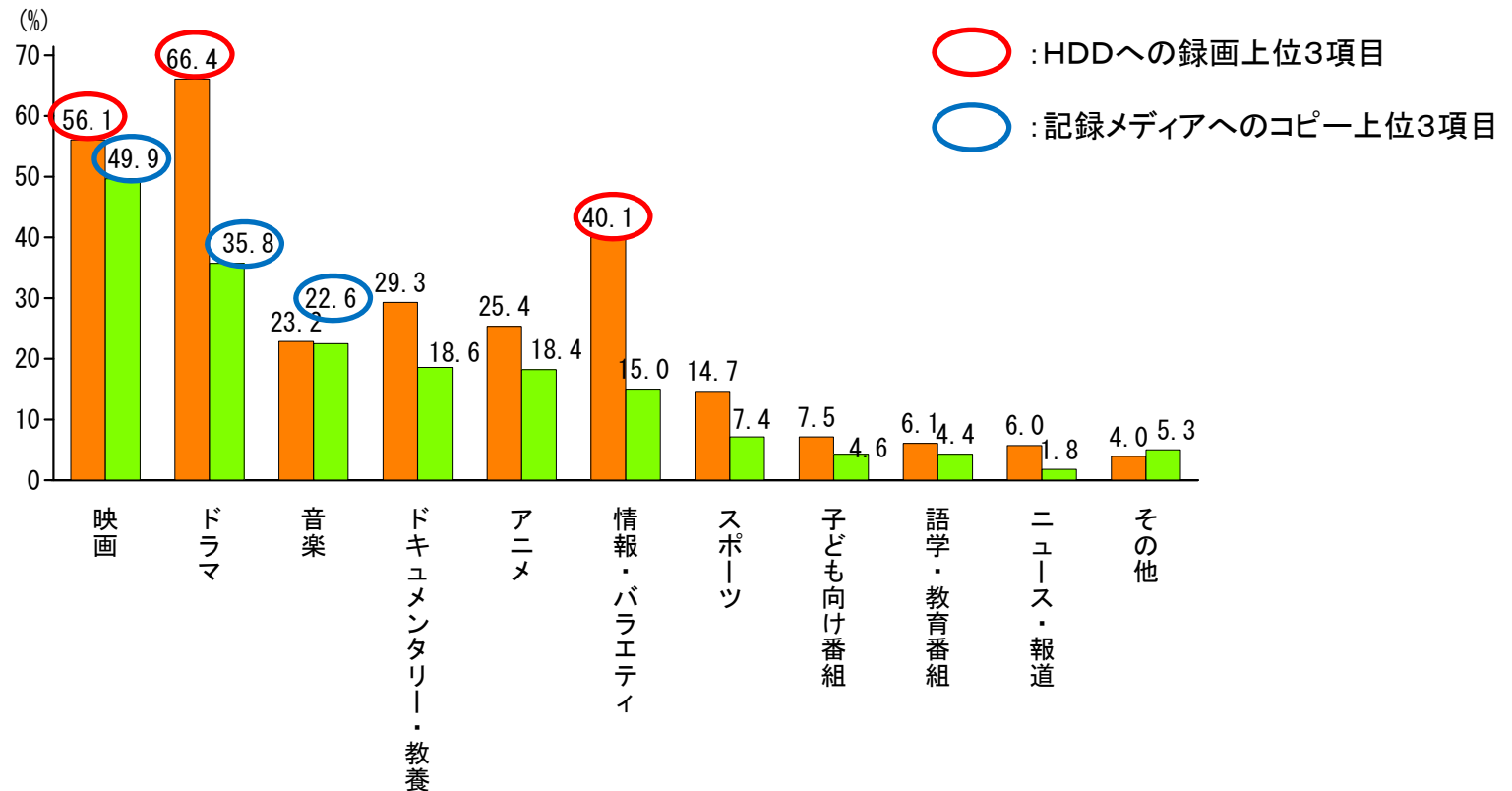
※2008年7月以降に録画機器を購入したと回答した者が対象

録画するテレビ番組のジャンル

※本調査より

- 「HDDへの録画」では、「ドラマ」、「映画」、「情報・バラエティ」が上位となっているのに対し、「記録メディアへのコピー」では、「映画」、「ドラマ」、「音楽」が上位。
- テレビ番組を単にタイムシフト視聴をするためだけでなく、お気に入りとして、保存していることも想定。

■ ハードディスク（HDD）への録画 n=3,169
■ 記録メディアへのコピー【ベース：コピー経験者】 n=1,600

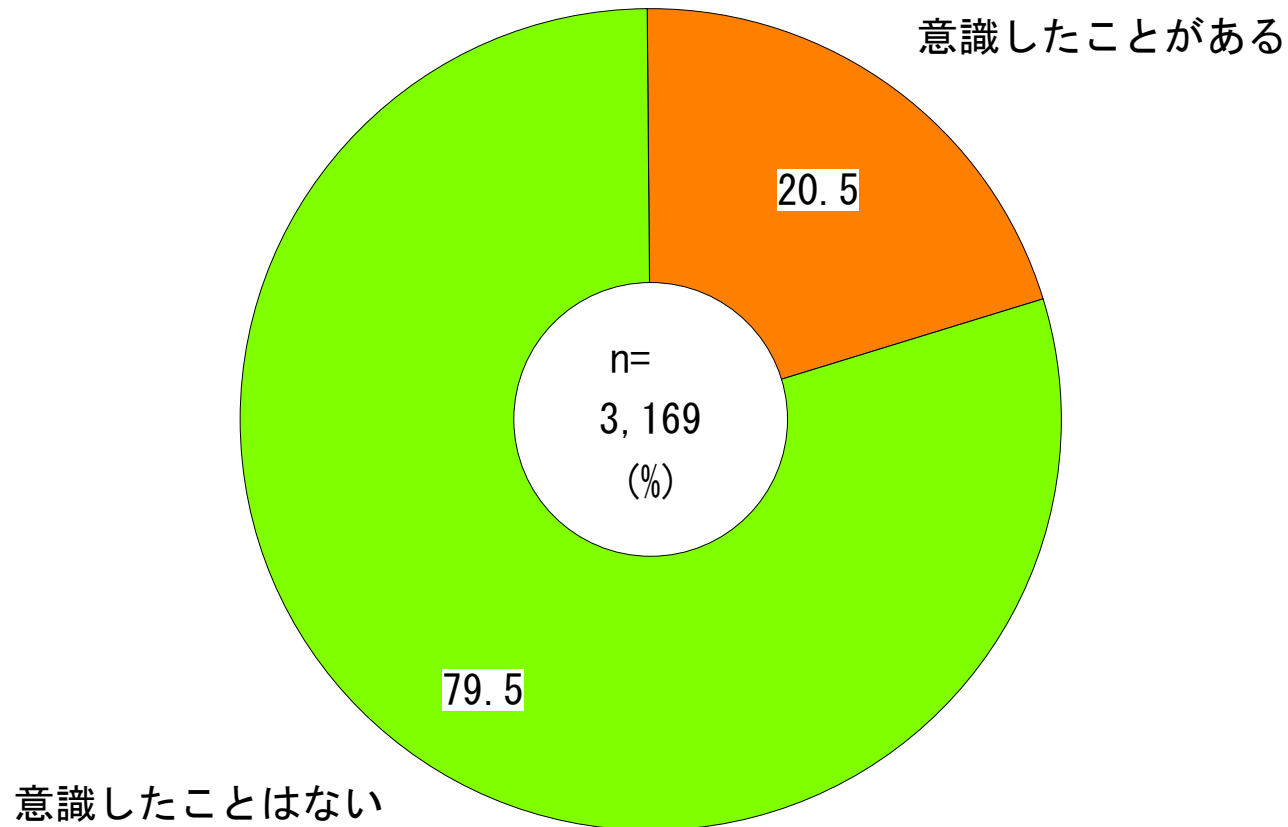


録画時にダビング10対応を意識した経験の有無

※本調査より

8

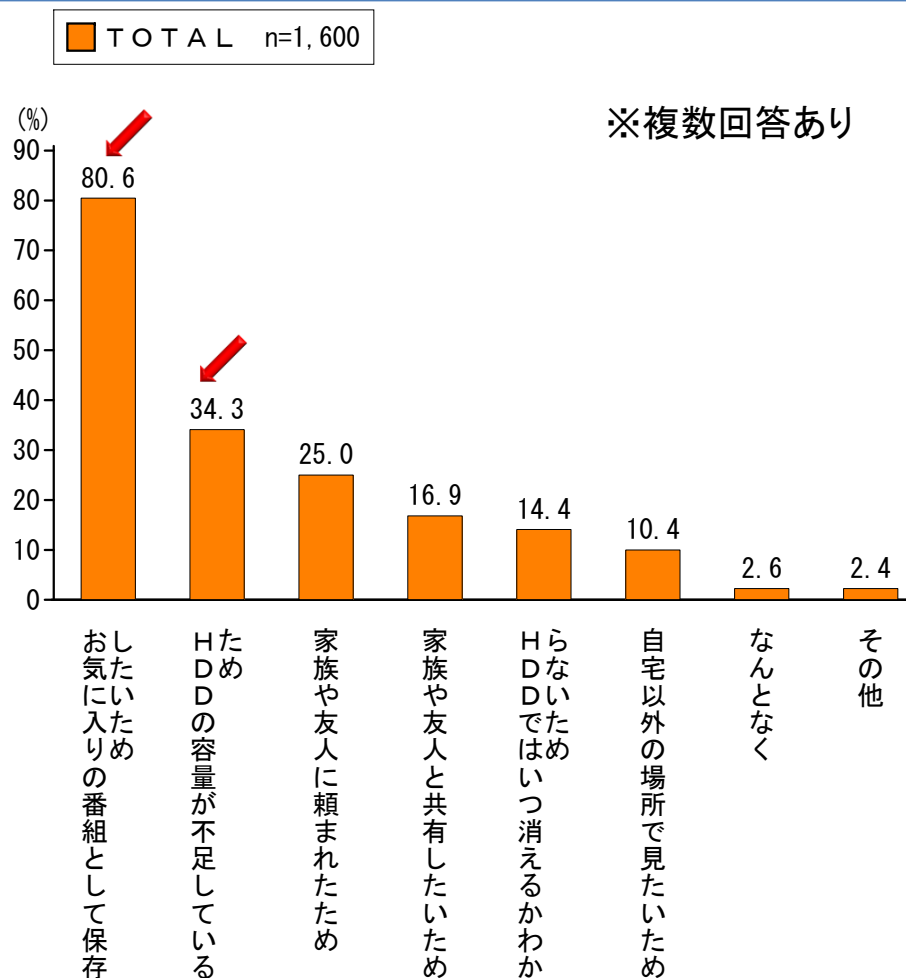
- テレビ番組の録画経験者が録画した際、録画機器がダビング10対応かどうかを「意識したことがある」は約2割、「意識したことはない」は約8割。



録画番組を記録メディアへコピーする理由

※本調査より

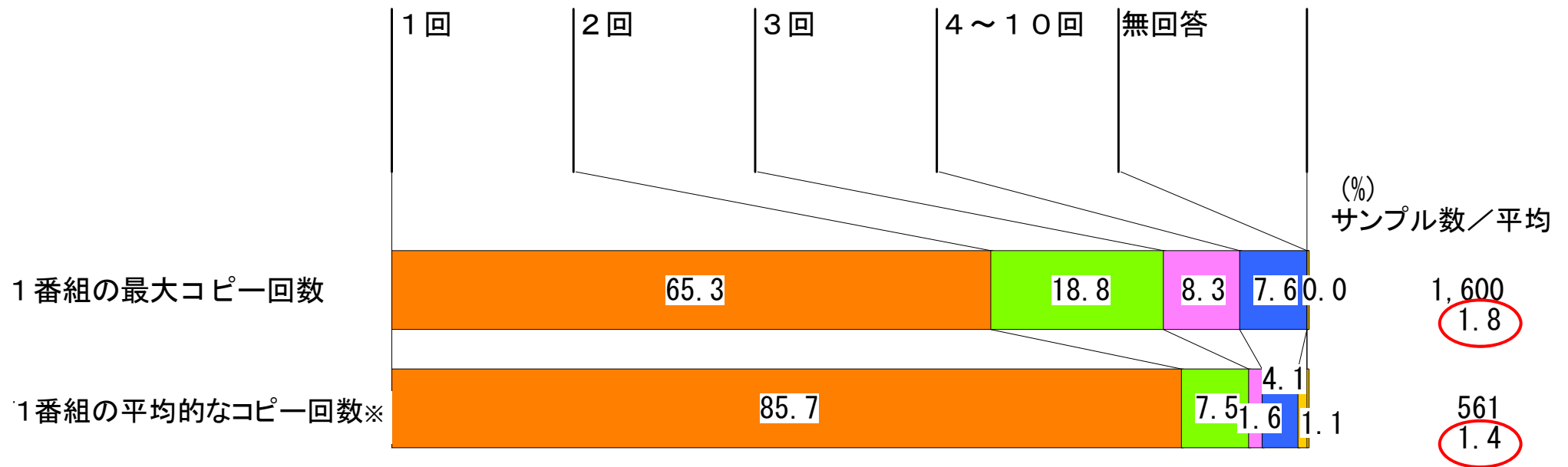
- 録画番組をコピーする理由としては、「お気に入りの番組として保存したいため」が8割と最も多い。
- 「HDDの容量が不足しているため」、避難的に記録メディアを使用している人も比較的多い。



一番組あたりのコピー回数

※本調査より

- 録画番組一つあたりの記録メディアへの最大コピー回数は平均で1.8回、平均的なコピー回数は1.4回。
- 最大コピー回数、平均的なコピー回数ともに1～3回の人が9割以上。

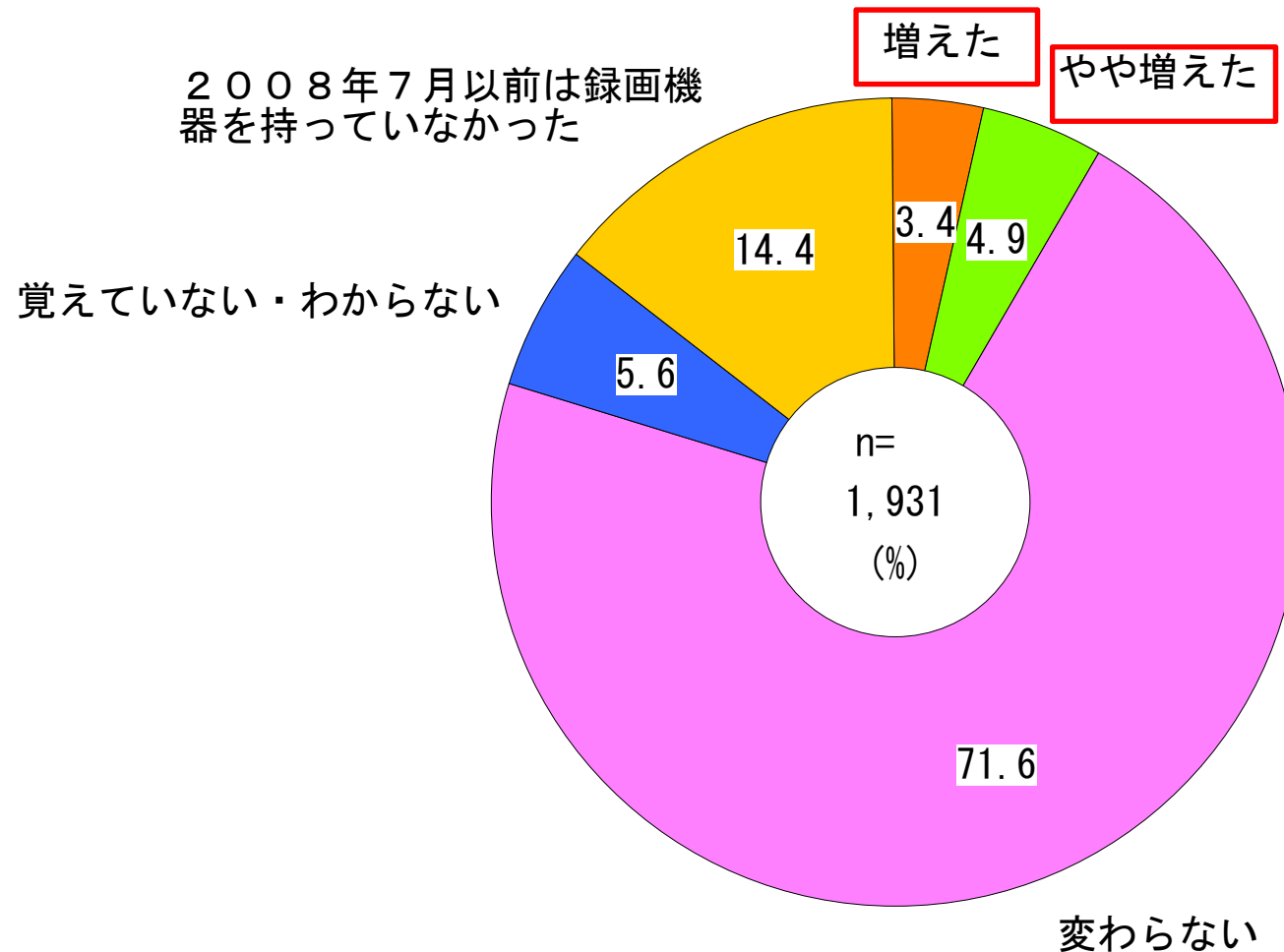


※平均的なコピー回数は、番組の録画頻度が1本/週より多いと回答した者が対象

ダビング10移行後のコピー回数の変化

※本調査より

- ・ コピーワンスからダビング10への移行後の録画番組一つあたりのコピー回数は、「変わらない」が71.6%を占め、「増えた」・「やや増えた」は8.3%にとどまった。



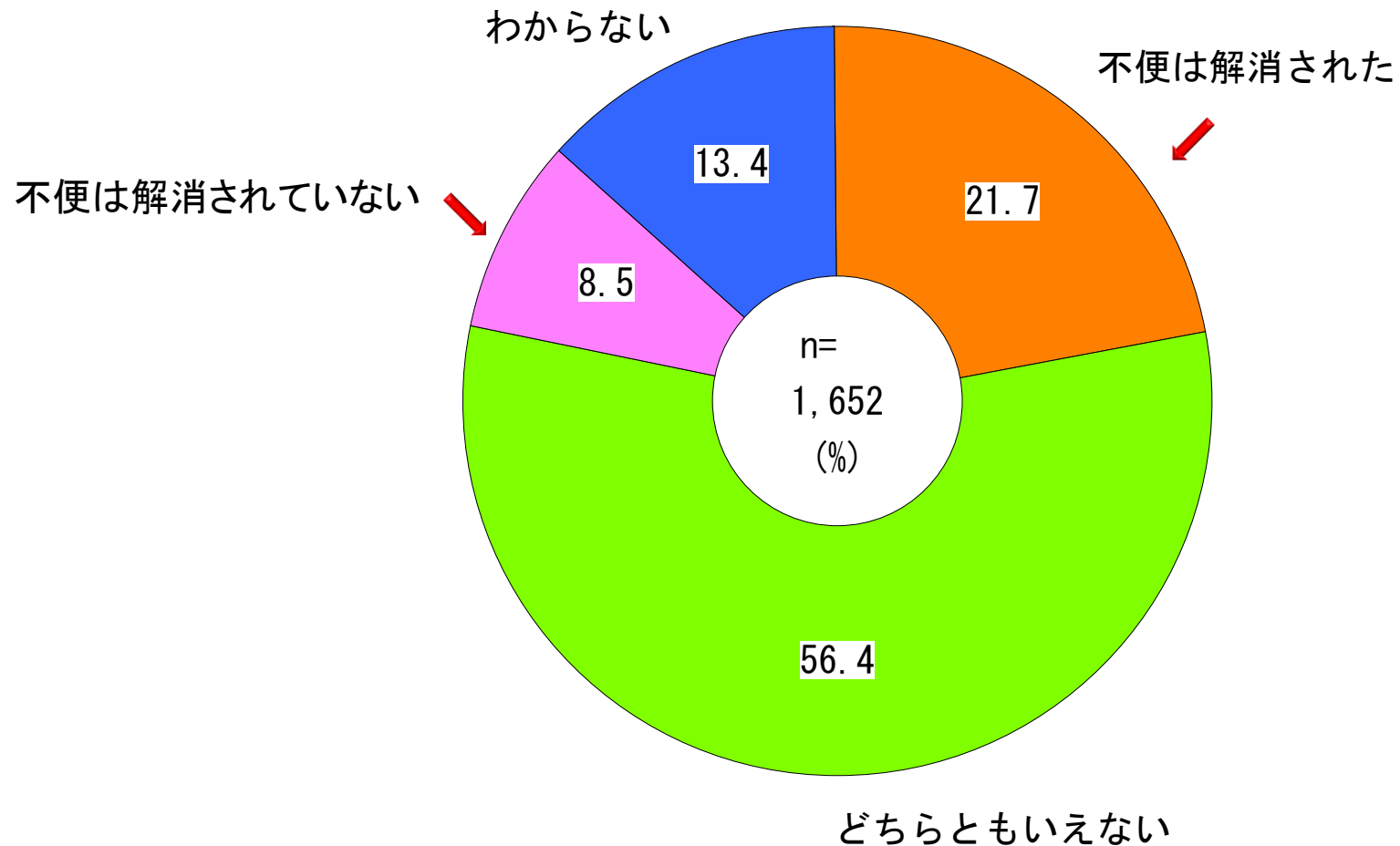
※保有している録画機器が「ダビング10に対応している」もしくは「たぶんダビング10に対応していると思う」と回答した者が対象

ダビング10移行による不便の解消

※本調査より

12

- ・ コピーワンスからダビング10への移行により、「不便が解消された」は21.7%、「不便は解消されていない」は8.5%であった。

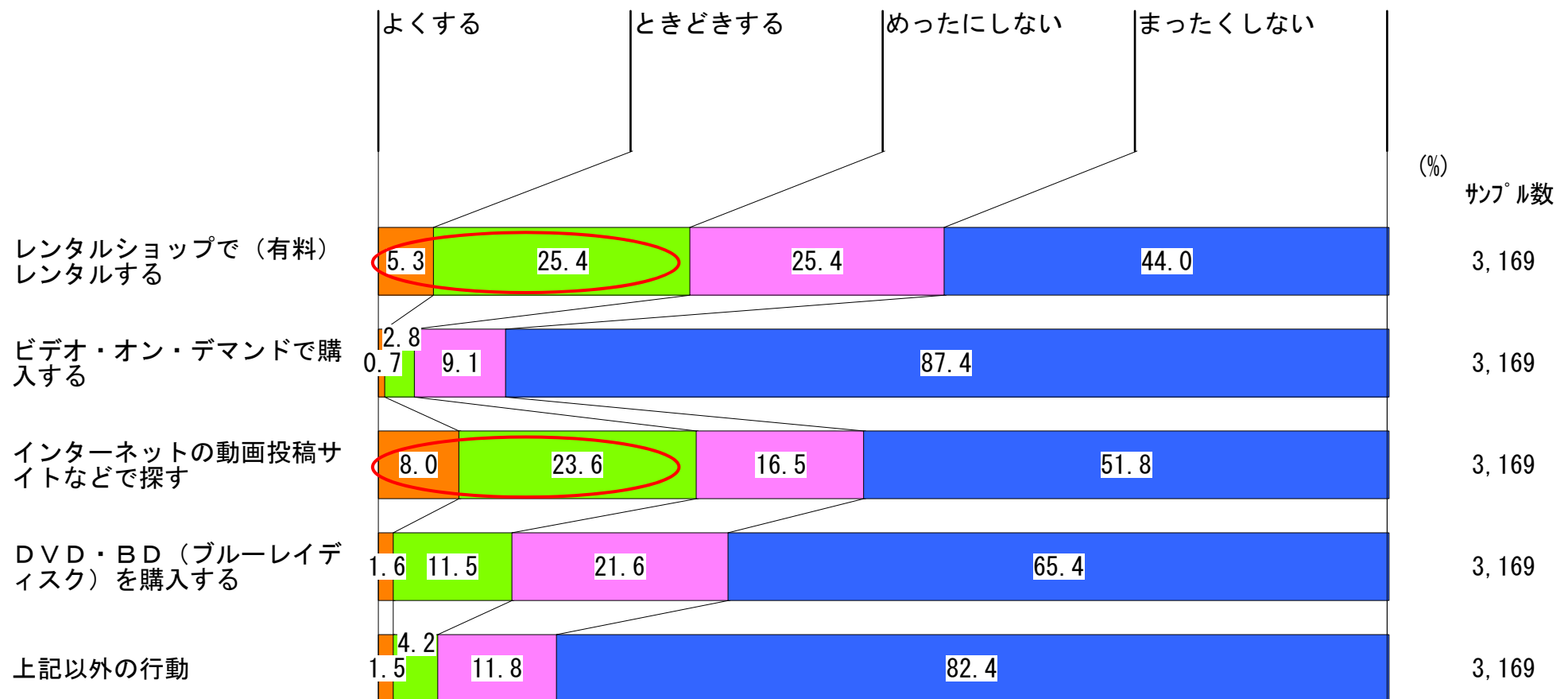


※ダビング10移行前から録画機器を保有していると回答した者が対象

テレビ番組を録画できなかった場合の対応

※本調査より

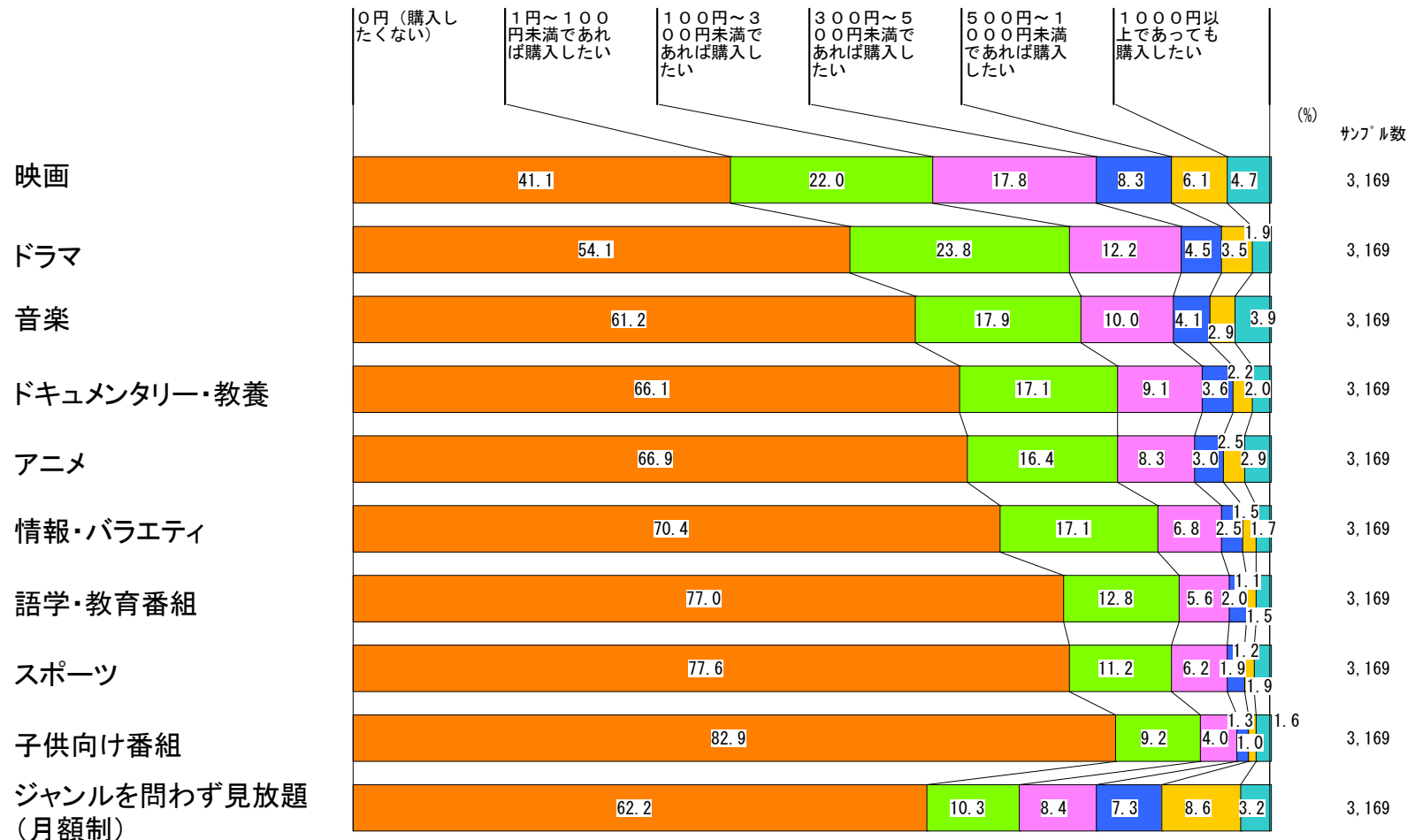
- 視聴したいテレビ番組を録画できなかった場合の対応としては、「レンタルショップでレンタルする」または「インターネットの動画投稿サイトなどで探す」が多く、「ビデオ・オン・デマンドで購入する」は少ない結果となった。



録画できなかったテレビ番組の購入意向

※本調査より

- 録画番組ジャンルの上位と同様、映画、ドラマ、音楽における購入意向が高い。
- 購入金額については、ほぼすべてのジャンルにおいて安いものが優位であったが、ジャンルを問わず見放題に注目すると、1000円未満までの選択肢間の差異が小さく、多少金額を支払うこともユーザーは許容できるということが想定される。



- ✦ コピーワンス、ダビング10については、約半数が認知していた。
- ✦ 1番組におけるコピー回数は「1～3回」が9割以上を占めた。
- ✦ 録画機器がダビング10対応であるかどうかを「意識したことがない」と答えた人が約8割であった。
- ✦ 視聴したいテレビ番組が録画できなかった場合の対応として、レンタルビデオや動画投稿サイトによる視聴が多いのに対し、ビデオ・オン・デマンドによる視聴は少ないことから、今後、コンテンツやサービスの充実等により、さらなるユーザ確保の余地があると思われる。